

令和 8 年度第 1 回羽島市健幸づくり施策検討委員会（会議要旨）

日 時	令和 8 年 8 月 21 日（金） 午後 1 時 30 分～2 時 30 分
場 所	羽島市役所 3 階 301・302 会議室
出 席 者	（委員）出席者 15 名 田中 吉政（羽島市医師会会長）、岩田 明（羽島市自治委員会理事）、河合 悟（羽島歯科医師会会長）、小川 徹（羽島薬剤師会会長）、高木 豊（羽島市スポーツ協会会長）、久保田 芳則（岐阜保健所所長）、山田 洋子（岐阜県立看護大学教授）、馬場 光一（羽島市民生委員児童委員協議会会長）、入野 國雄（さわやかクラブ羽島会長）、鈴木 渉（羽島市保育会会長）、島田定尚（羽島市小中学校長会代表）、堀 隆浩（羽島市 PTA 連合会代表）、立花 智美（羽島市総合型地域スポーツクラブ代表）、不破 直子（羽島市食生活改善連絡協議会会長）、尾畑 明日香（公募委員） （事務局）12 名 松井市長、熊崎子育て・健幸担当部長、國井子育て・健幸課健幸担当課長、長江学校教育課長、柴田スポーツ推進課長、河田高齢福祉課長、北島保険年金課長、横山保健政策担当課長補佐、赤嶺健幸担当課長補佐、中間予防・保健指導担当課長補佐、永田健幸増進係長、小塚主査 （傍聴者）0 名
内 容	1 開会 2 市長挨拶 3 議事 （1）羽島市第 3 期健康増進計画「元気はしま 21」の進捗状況と令和 8 年度の取り組みについて －事務局より資料に基づき説明（資料 1、別紙 1） －質疑応答－ （委員） 1 ページ、特定保健指導終了率が令和 5 年度から 6 年度に 5 倍程上昇。6 年度から 7 年度も継続してアップしているのか。 3 ページ、飲酒および喫煙が及ぼす健康への害に関する小中学校での教育について、薬剤師会が各学校に出向いて行う薬物乱用防止教室（喫煙、OD 等）の他に市で行っているのか。 （事務局） 特定保健指導対象者へのアプローチを幅広く実施できるよう、専門の保健師および管理栄養士を保健事業係として設置し、体制を強化。

対象者に対しては、来庁者への指導だけでなく自宅訪問を積極的に実施。令和7年度の対象者に対しても同様の方法で取り組んでいる。

(事務局)

学校では保健体育の授業等で飲酒や喫煙等が身体に及ぼす影響についての指導や、夏休み等長期休業前には、飲酒、喫煙等の問題行動に繋がりやすいことについても適宜指導を実施。

(委員)

4 ページ、虫歯のない3歳児の割合について、羽島市は95%と高くみえるが、他自治体では虫歯のない3歳児はほぼ0に近いというデータもあり、特に良いというわけではない。特定の児に虫歯が多い現状もあり、小学生においても同様。3歳児健診等で、口腔内の状況から虐待に近いような児に対しては重点的にフォローアップが必要。個別な対応がより求められていると感じる。

4 ページ、成人歯科健診について、国の政策で国民皆歯科健診が打ち出され、近い将来年齢に関係なく全員が歯科検診をうけるようになると見込まれる。羽島市は口腔機能検査を実施しているが、口腔機能の低下は40歳から始まるため、予防のために50歳以上への口腔機能検査追加を検討してもらいたい。

(委員)

3 ページ、3歳の幼児に朝食を食べさせない父母に対して、啓発で改善するものなのか。出来ないのかやらないのか、個々の事情があると推測される。虫歯と同様、虐待に近い養育環境の中では単に話しをするのではなく、個別のアプローチで改善につなげることが必要。

(事務局)

虐待は家庭内で起こるため学校では見つけにくい。歯科健診等の機会に虐待の可能性を念頭に置いて診ていただき、そのような状況があった場合は関係機関に繋いで対応していくよう徹底したい。

(委員)

1 ページ、循環器病対策でⅡ度高血圧以上の割合やメタボリックシンドロームの該当者が県内ワーストの順位であるが、以前からこのような状況なのか。

(事務局)

近年はこのような状況である。

(委員)

市民に脳血管障害や循環器疾患が多い等の実際のデータを提示した方が啓発になるのではないか。また、例えば骨粗鬆症によって大腿骨頸部骨折を起こした人、骨折によって手術をした人が年間何人発生しているのかという数字を提示する。その数字をもっと減らすという目標設定にした方がわかりやすい。データを出すのであれば病気に結び付けてはどうか。

(事務局)

メタボリックシンドローム該当者等は特定健診の受診者データによるため、受診者数を増やさなければ現状の分析ができないが、確か

に病気につながったかどうかを確認する必要がある。ご指導いただいた点について、様々なツールの利用や、SNS 等での啓発を実施していきたい。

(委員)

訪問支援や個別支援を積極的な実施はとても良い。それに対してどういう効果があったかのデータを提示していくとわかりやすい。健幸ポイントリーフレット内の健幸づくり取り組み項目の「アルコール」について、6 月に国立がんセンターから飲酒量、飲酒の目安が公表され、適量飲酒はない、と打ち出された。既にリーフレットに「適量または酒をやめる」と断言されているのが印象的である。

4 閉会の挨拶